

磐城春秋

第二十四號
 發行所 磐城平田市
 社 秋 町 五 番 五 號
 八 六 三 五 行 街
 人 刷 印 行 高 橋 水 和 木 印 刷 所
 水 和 木 印 刷 所
 所 版 活 平 行 發 總 土 週 毎
 【號十五部一假定】

失業問題 就職難の真相は 條件の食ひ違ひ

巷には失業者の群がさまよひ、暗澹たる敗戦日本は今や飢餓と疾病に悩まされ、此の様な現象は戦勝國と戦敗國とを問はず共通の現象であるが殊に戦敗國に於て甚だしい事は論を俟たない。然し考へて見れば戦敗國であるが故に失業者等は一人もゐないといふ奇妙なパラドックスが成立しうるのである。國內は戦災によつて荒廢し切つて居りその整理復興だけでも莫大な人員を要するであらう。ましてやアメリカの如く優秀なる土木機械を持つてゐない我が國に於てをやである。食糧事情も既に切迫したの逼迫だの正に飢餓線上を彷徨してゐる等の形容詞では表現出来なくなつて來てゐる。此の事にも未開墾の土地開發や、肥料増産に必須の石炭増産等に幾ら人間があつても足りないであらう。其の外日本には巨額の賠償問題もあり食糧其の他の輸入物資の見返生産と云ふ仕事もある。斯んな譯だから失業者等は勿論ある筈が無い。若しあるとすればそれ等の人は遊んで食つてゐられる高等遊民達だと云ふのであるが正に理論上はさうあらうとも現實に職を求めてさまよふ人々の群が巷に溢れてゐるのである。是は一体どうした事であらうか。生きる爲に深刻な否それ以上の苦悶を孕んだ大問題なのだ。現在磐城地方の求人側の要求と求職側の要求は平動労働者で扱つた者だけで月割りにすると六百名乃至七百名位である。

人物紹介 (17) 猪狩克己君 縣地方労働委員

猪狩君は、この組合の執行委員の一人であり、また縣地方労働委員の一人であつて同組合誕生後の中心的人物の一人として注目されて來てゐる。君の存在が目立つ理由の一つは君の辯論であり、また君の厚い見聞とその態度である。而して君の雄辯は戦中時代辯論部委員長として君の賜であるが、政治

ひ違ひに因る。求人側では一、運動可能な者 二、家族少き者(獨身者ならば可) 三、成可経験年數多き者 等々の條件を挙げ、一方求職者側では、住込みを希望し、焦つて職を求めざる者の大部分は家族が多く、併もそれ等の職種に経験の淺い者が多い。然してそれ等の中で最も困窮してゐる者は海外よりの引揚者である。彼等は住込みの家が無いので安定した住居が無ければ働きたくとも働けない。先づ家を興へれば次第に就職難は緩和されるであらう。然し是は「求職」と云ふ方面からのみ見た就職難の一解決策であり、「求食」の方面は一言にして云へば現在の状態ではなる様にしかならないだらう (中里)

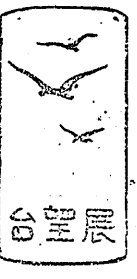
諸會合一束

七月七日(日)午後一時より五時迄梅原英男氏主催詩歌の會
 七月八日(月)午後六時より九時迄ヒバリ樂團音楽演奏會
 七月九日(火)午後一時より海外引揚者及方面委員との懇談會
 七月十日(水)午後一時より引揚者保健衛生に關する指導會
 以上いづれも公會堂日本間に於て
 七月十一日(木)午後一時より平動労働者に於て海外引揚者の就職並住宅に關する相談會
 七月二十六日(三)三日間磐城文化協會では搔毬小路石城産婆學校で第三回文化講座を開く、科目は郷土史諸根柢一氏、榮養失調病について織内平八郎氏、文藝高澤有爲男氏、原子爆弾について石崎茂氏



貝殼開放

△勸誘語をはじめ各役所で出す文書類が長來のかたくなしい候や文語體からやさしい口語體に改つてきたのは好い傾向である。しかし口語體といふのはもとゞゞ文の出來具合から違つてゐるのだから單にむづかしい漢語をそのままに「たゞ」「である」「せられた」「い」といふ風に勸誘、助動詞類だけを口語にして見た所で充分でない。現在の役所の文體がどこか落着かぬ感があるのはこの口語體が充分なれてゐないためである。△平市内の工業、商業、農業の三教が校舎新築で目下各方面から寄附金募集である。父兄同窓生なり、愛郷心なりを訴へて協力をこもして大意である。△金銀問題と云ふものは角アツク易いから關係者は慎重を期してほしい。工業の需負に對してなどは特に警告を發しておかなくてはならないであらう。



公會堂を明け渡せ

困つた。そして困つてゐる我々は何も出来ないのだ何か催物を計畫する。重なる場所は聚樂館、平館、第三講堂、第二講堂此の四箇所位のものだ。劇場側ではあまり借したがいらないし又借料が高い。第二、第三は願する場所が悪い。何も出来ぬ。何とか早く市役所を他へ移轉して欲しいものだ。是は困つてゐる一般大衆の聲だ。困つた。そして困つてゐる (勝海舟)

近火御見舞御禮

平市彌宜町三四(電七二二) 株式會社 田邊製作所

近火御見舞御禮

平市彌宜町一(電七六五) 猪狩鑄造工場

製薬ムカリシニベ 膏軟ンリシペタ (傷創 疹濕症膿化) 一設開日一月七 株式會社 業工品薬ブツハ本日 所張出縣島福 番五一八話電七十土揚市平

負請事工氣電 付取器熱電内そ 付事工の しまし致く安く早 會商スビーサ平 八十五町田市平 番一一六話電

外科 上田醫院 平市南町 電話一二九
 内科小兒科 渡邊醫院 平市八幡小路 電話八一四

秋 春 城 磐

(可認物便郵種三第)

(二)

ス ポー ツ 便 り

◇濱通スポーツ聯盟第一回
理事會は去る廿七日開かれ
たが左之通り役員を決定し
た

會長 蓮沼龍輔
副會長 (學校) 渡邊伊藤
(石城) 鈴木傳明
同 (双葉) 志賀 赴
同 (相馬) 未 定
理事長 永野孝夫
常任理事 坂井清之助 外
十八名
理事 長谷川政外四十
一名

監 事 宮澤勝雄外二名
◇全磐城陸球選手権大會は
去る廿三日磐女コートで舉
行されたが次の如く平クラ
ブの川村、大坪組が選手権
を獲得した

準決勝
平(猪) 4-0 平(小) 松
俱(宇留) 野 佐々木
俱(大) 坪 4-2 俱(小) 林
決 勝

平(川) 村 4-1 平(猪) 狩
俱(大) 坪 4-1 俱(宇留) 野
◇東日本陸球選手権大會は
七日大宮公園コートで舉行
されるが縣代表として石城
庭球聯盟から次の四組が出
場する

監 督 根本武雄
齊藤(小川) 國部(鴻池)
志賀(篠原) 猪狩
なほ同試合後日清紡績と對
抗試合を舉行する

◇全磐城陸上競技選手権大
會は去る廿三日磐女で舉行
されたが各優勝者は次の通
り

百 米 佐藤忠男 (湯本)
十一秒七
四 百 米 木暮和夫 (磐中)
一分四秒六
千 五 百 米 水野谷忠 (磐中)
四分五秒五
五 千 米 寒河江義夫 (常磐)

製作) 二十分二七秒八
百 米 繼 走 GCM
走 巾 跳 山家博孝 (平商)
五分六九
走 高 跳 高橋剛 (GCM)
一米六七
砲 丸 投 山家博孝 (平商)
十一米五〇

◇福島市陸上競技聯盟と石
城陸上競技聯盟との對抗試
合は七日午前九時から磐女
校庭で九種目に亘つて舉行
される

◇廿八日から三日間に亘つ
て舉行された都市對抗野球
聯盟に磐城地方から「平ク
ラブ」及「常磐炭礦」の二
チームが出場したが次のス
コアで惜敗した

第一回戦
常磐炭礦 20 A-15 今泉産業
第二回戦
平クラブ 1-5 A 日東紡福島
工場

常磐炭礦 O-8A 福島クラブ
◇文部省主催社會體育運動
普及講習會は十八日より三
日間仙臺市で舉行されるが
磐城地方からは長谷川市勢
務課長外二名が出席する

◇四市役所對抗野球大會は
郡山麓山グラウンドで十四日
行はれる

◇縣下軟式野球大會磐城地
方選は七月下旬舉行され
る筈であるが詳細は追つて
發表する

◇日本選手権水上競技大會
縣予選は二十八日福島市師
範プールで舉行されるが濱
通り方部代表(男女共)は
予選會を行はず餘衛により
決定する事になつたので出
場希望者は十五日迄に申込
まれるやうスポーツ聯盟で
は希望してゐる。種目その
他は同聯盟に問合せこと

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

文 藝

投稿 歡迎
可紙上 匿名

古沼をもほりにつ、藻の花をか
なほきものさ泪わかしぬ
藻の葉に桐の花散るしつげさや離
室の夕陽き飽かぬか
落の葉に桐の花散るしつげさやほ
る苦き茶を吸りつゝある
よべの雨はげしかりしとひさりこ
ち桐の根方の花を見やりぬ
里ゆけばより来る見らよはしけや
し見しらぬ昔に低きいづする
里の子はかなじきるかも藤の花お
しだんまりて吾に咲たり
いちばつたの花の盛りとなりけり
沼もともほる日にいくたびぞ
むらさみの心さやけし六月の朝の
廊下にてまりの花
手折り来しかなじきひとのめぞ見
ゆる朝の廊下にてまりの花

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若
拾名 二〇-三十歳迄 月收百七
拾圓-四〇〇圓 炭礦機器製作組
合平工場
工具五名 十九-二十歳迄 日
給十圓 丸一材木店
見習男工五名 十六-二十歳迄
日給二圓二角五分 離夫四十
歳前後 平働工所

釣案内

愈一日から鮎解禁となり待たまへ
てゐた太公望運がどつき押出した
が天気の悪い事が惜しまれてゐる
夏井川上流の小川郷邊双葉郡の木
戸川、植田の鉾川が重なる漁場で平
均六寸-六寸五分位
ウチヤホも良く草野の横川、
高久の滑澤川が手頃

開業御挨拶

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援賜り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々
昭和二十一年七月
平市鎌田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

大和炭礦

鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

佐藤幸太郎營業所

平事務所平市新田町二六
電話七一七 四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話(五七)四八三番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話(平)八三五二七三三五〇
二九二 三八九番

中央會館

平市南町平館四階

酒井無線電機商會

平市五丁目十三

宅住地土平

社 會 有 限

郎 次 昌 木 正

番 二 〇 二 話 電

文 藝

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若
拾名 二〇-三十歳迄 月收百七
拾圓-四〇〇圓 炭礦機器製作組
合平工場
工具五名 十九-二十歳迄 日
給十圓 丸一材木店
見習男工五名 十六-二十歳迄
日給二圓二角五分 離夫四十
歳前後 平働工所

釣案内

愈一日から鮎解禁となり待たまへ
てゐた太公望運がどつき押出した
が天気の悪い事が惜しまれてゐる
夏井川上流の小川郷邊双葉郡の木
戸川、植田の鉾川が重なる漁場で平
均六寸-六寸五分位
ウチヤホも良く草野の横川、
高久の滑澤川が手頃

開業御挨拶

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援賜り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々
昭和二十一年七月
平市鎌田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

大和炭礦

鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

佐藤幸太郎營業所

平事務所平市新田町二六
電話七一七 四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話(五七)四八三番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話(平)八三五二七三三五〇
二九二 三八九番

宅住地土平

社 會 有 限

郎 次 昌 木 正

番 二 〇 二 話 電

文 藝

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若
拾名 二〇-三十歳迄 月收百七
拾圓-四〇〇圓 炭礦機器製作組
合平工場
工具五名 十九-二十歳迄 日
給十圓 丸一材木店
見習男工五名 十六-二十歳迄
日給二圓二角五分 離夫四十
歳前後 平働工所

釣案内

愈一日から鮎解禁となり待たまへ
てゐた太公望運がどつき押出した
が天気の悪い事が惜しまれてゐる
夏井川上流の小川郷邊双葉郡の木
戸川、植田の鉾川が重なる漁場で平
均六寸-六寸五分位
ウチヤホも良く草野の横川、
高久の滑澤川が手頃

開業御挨拶

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援賜り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々
昭和二十一年七月
平市鎌田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

大和炭礦

鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

佐藤幸太郎營業所

平事務所平市新田町二六
電話七一七 四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話(五七)四八三番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話(平)八三五二七三三五〇
二九二 三八九番

宅住地土平

社 會 有 限

郎 次 昌 木 正

番 二 〇 二 話 電

文 藝

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若
拾名 二〇-三十歳迄 月收百七
拾圓-四〇〇圓 炭礦機器製作組
合平工場
工具五名 十九-二十歳迄 日
給十圓 丸一材木店
見習男工五名 十六-二十歳迄
日給二圓二角五分 離夫四十
歳前後 平働工所

釣案内

愈一日から鮎解禁となり待たまへ
てゐた太公望運がどつき押出した
が天気の悪い事が惜しまれてゐる
夏井川上流の小川郷邊双葉郡の木
戸川、植田の鉾川が重なる漁場で平
均六寸-六寸五分位
ウチヤホも良く草野の横川、
高久の滑澤川が手頃

開業御挨拶

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援賜り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々
昭和二十一年七月
平市鎌田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

大和炭礦

鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

佐藤幸太郎營業所

平事務所平市新田町二六
電話七一七 四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話(五七)四八三番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話(平)八三五二七三三五〇
二九二 三八九番

宅住地土平

社 會 有 限

郎 次 昌 木 正

番 二 〇 二 話 電

文 藝

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若
拾名 二〇-三十歳迄 月收百七
拾圓-四〇〇圓 炭礦機器製作組
合平工場
工具五名 十九-二十歳迄 日
給十圓 丸一材木店
見習男工五名 十六-二十歳迄
日給二圓二角五分 離夫四十
歳前後 平働工所

釣案内

愈一日から鮎解禁となり待たまへ
てゐた太公望運がどつき押出した
が天気の悪い事が惜しまれてゐる
夏井川上流の小川郷邊双葉郡の木
戸川、植田の鉾川が重なる漁場で平
均六寸-六寸五分位
ウチヤホも良く草野の横川、
高久の滑澤川が手頃

開業御挨拶

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援賜り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々
昭和二十一年七月
平市鎌田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

大和炭礦

鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

佐藤幸太郎營業所

平事務所平市新田町二六
電話七一七 四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話(五七)四八三番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話(平)八三五二七三三五〇
二九二 三八九番

宅住地土平

社 會 有 限

郎 次 昌 木 正

番 二 〇 二 話 電

文 藝

古 籍 目 録

(上) 拾 り よ 録

雄 康 池 菊

一、復所先生自筆稿本
去月二十五日夜半、復所(起きた
る時、腦血管を起して昏倒し、額
に傷を負つた。床へ母や妹に連れ
てこられた事など
全く記憶が無い。
我ながら、だらし
無く思ふ。傷はす
ぐ治るやうに見え
たが、毛生え際よ
り化して長びき
二三日前より顔の
むくみがたれて、
大變氣分がよいつ
た。昨日友人より贈ら
れた「復所と文獻」と題する、古
籍目録を、腰少行中に神林復
所先生の自筆稿本が、裏りに出て
居る。オヤ、と思つて見直せば

和 歌

藻の花其他

草野ひさを

藻の花はのちにはなく咲きにけ
り黄色き花を地きたゆたひに
藻の花をか揺りかく揺り黒き鯉つ
らなりて通る藻の底ひを
藻の花の揺る、と見れば藻底のあ
もりはむきをかへてにけり

憶ひは遙かなり

宣 子

一、憶ひは はるか
昔に紅き椿咲きし頃
清き小川の氷ははくみ
幼き手で舟を流しぬ
二、憶ひは はるか
美しきさつきの頃
クロイバの葉はやわらかく
山羊なきて
草の香に友は静かにまぶたさ
三、憶ひは はるか
桑の葉は紅くうれし頃
陽は西にたかむきて山は金色
に輝きぬ
友の指先は紅く染みてやさし
き
四、憶ひは はるか
なつかしの時は過ぎて
親しき友は遠き
今一人わびしくものおもふ
あ、憶ひははるかなり

郷土文藝誌紹介

★ヒロヤ 六月號
「愚庵と子規」「三夏の鳥に就い
て」「松山房雜話」等內容が盛
を迫つてしつかりして來てゐる

★星雲 六月號
陸軍版別十六頁、詩と俳句と和
歌を盛つてゐる。前號に比し別
に進境も見えぬがその努力を多
とする

★水草 第一集
富士興業株式會社文化部の俳句會
句集。陸軍版別二十六頁
★前衛雜誌 四月號
双葉郡大野村の同社發行 贈寫
刷八頁の詩雜誌

求職案内

平働所より

炭水手男三名 十七-二十歳迄
月給二百四十圓-二百五十圓 小
名濱海濱鐵道
見習工女拾名 十六-二十歳迄
市内通勤者 乘原アンプル製作所
研工一名 ミーリング工一名
仕上工一名 旋工若干名 年令不問
電機工業株式會社四倉工場
製材工男三名 廿五-四十五歳
迄三年以上の経験者 江名造船所
大工男三名 家具工、玩具工各
二名 廿五-四十歳迄 月收八百
圓 和田製材産業木工所
建築、指物、家大工各三名 三
〇歳以上 給面談 通勤住込可
高木炭礦事務所
ネジ切女工 假治工打切工各若